

公表	放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表
----	--------------------------

○事業所名	さくらプラス桑名星川		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日～令和7年2月20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	4
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日～令和7年2月20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月22日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小規模（5名定員）による手厚い支援ができる。	マンツーマン対応したり、集団でもできるだけ個々が一緒に参加できるように職員配置をしている。	利用者増加に伴い、職員の増員をしていき、より活動の充実と行き届いた支援を行っていく。
2	看護師の人数がしっかり確保されており、柔軟な対応が可能。	看護師同士の連携はもちろん事業所全体でもしっかり意見を交わし、その子に必要な支援を多種職で連携をするように心がけている。	様々な障がい（医療的ケア）にも幅広く対応ができるよう経験を積み安心して預けることができる事業所を目指し取り組んでいく。医療的ケアが必要な子が増えてきた為、看護師の増員をして、よりきめ細やかなケアを行える体制を整えていく。
3	理学療法士が在籍しており、より専門的なリハビリが可能	病院でのリハビリ情報取得したり、時にはリハビリの見学に行くなどして、同じ目標に向かって実施することができる。	必要なニーズの把握と、親御さんのニーズをすり合わせ、より事業所での充実したリハビリを実現していく。楽しみながらおこなえるように工夫を継続していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会等保護者同士での交流を主目的とする機会は設けられていない	必要に応じて、個別で話し合う機会は設けているが、全体としては取り組めていない	まずは保護者同士での交流を求めている保護者の人数やニーズの把握に努め、それを踏まえた、会の設定方法を考える必要がある。
2	放課後等デイサービスは児童発達支援に比べ、子どもの体が大きく運動量もある為、活動スペースの狭さや寝ている子のスペース確保が難しい時がある。	個々の特性が違うことにより、その日の利用する子によって狭さを感じることもあるが、人員的に別の部屋でということが難しい時もある。	事業所全体での運用の見直しと活動場所の検討、レイアウト変更など検討していく。
3	利用者の特性上、同じ活動内容では難しい場面がありその活動のバリエーションが足りないと感じる。	専属の保育士がいない。	保育士を確保したうえで、来年度以降しっかり個々に合わせた活動内容の見直しを行い、充実を図っていく。